



こうざき 聡 夢からはじまる

http://www.kouzakisatoshi.com



県政報告

食と緑を守る緑友会福岡県議団

平成27年4月号

昭和37年9月20日生、平成23年4月、福岡県議会議員初当選。添田町立添田小学校・添田中学校、福岡県立田川高等学校 日本大学商学部卒。

「四年間の成果として」

農林水産常任委員会・副委員長
福岡県議会議員 神崎 聡

四年間の県議会・県議会議員もあつという間に過ぎようとしています。田川の皆様に頂いた13,519票という一票一票の重みと、それに込められた想いを裏切ることなく、また意欲にすることなく、一生懸命に取り組んできた議会活動・議員活動だと自負しています。

最後の二月定例県議会でも、「ダム周辺・湖面の有効活用について」一般質問をし、これで四年間のすべての本会議で壇上に立つことができました。ひとえに、元田川の皆さんのお蔭だと心から感謝致しております。

3度の代表質問を含め、十六回連続の質問は、回数・質問時間とも全県議で断トツのトップでありまして、知事を始め執行部の答弁時間も群を抜いていました。当然、引き出しました答弁内容が重要でありまして、それがどのように政策に結びつき、予算化し、県政はもとより地元田川にどう貢献できたかが大事であります。

四年間を振り返り、一朝一夕には行政は動きませんが、コツコツと誠実に取り組んできたからこそ、執行部の皆さんとの信頼関係も築け、議員同士の理解と協力もできたと思います。

家庭の中で子供たちに「努力に勝る天才なし」と言ってきたが、親の後ろ姿を見せることができた事は、親としては何にも代えがたいものであり、頑張った甲斐がありました。

この四年間の成果を、さらに確かなものにするために、これから一生懸命に頑張ります。今後とも、皆様のさらなるご指導、ご鞭撻、また、ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

スマートフォンでも
県議会毎画面中継



ブログ報告



動画報告



フェイスブック



フェイスブック ページ



ツイッター



議会本会議質問

- 平成23年6月一般質問
 - ①田川地域の将来ビジョン
 - ②ICT戦略と自然エネルギー政策（電力政策）
- 平成23年9月一般質問
 - ①社会保障と税の一体改革
 - ②県税収入と滞納整理
- 平成23年12月一般質問
 - ①水道事業
 - ②伊良原ダム
 - ③アジア環境ビジネスの展開
- 平成24年2月一般質問
 - ・サイバー空間における情報セキュリティ対策について
 - ①情報セキュリティ対策に対して現状と取り組み
 - ②地域医療ネットワークに対しての基本的考え
 - ③T P Pによって危機される医療情報
 - ④警察本部におけるサイバーテロ対策
 - ⑤学校現場におけるセキュリティリテラシー
 - ⑥情報セキュリティの官民連携と情報産業（IT産業）の推進
- 平成24年6月代表質問
 - ・知事の政治姿勢について
 - ①知事自身の幸福感
 - ②1年目の成果と今後の課題
 - ③内閣広報官経歴
 - ④九州広域行政機構
 - ⑤T P P問題
 - ⑥最高情報統括責任者設置
 - ・防災対策について
 - ⑦県防災・ハイパーネット
 - ・農政問題について
 - ⑧県の農産物自給率
 - ⑨新規就農者の取組み
 - ⑩香春岳周辺のニホンザル
 - ・商工問題について
 - ⑪国際規格になったRuby
 - ・地域の観光戦略について
 - ⑫田川地域の観光振興
 - ⑬田川地域の道路行政
 - ・雇用問題について
 - ⑭SOHOサポートセンター
 - ⑮子育て応援宣言企業
 - ⑯ワークライフバランス
 - ・少子化対策について
 - ⑰新たな出会い応援事業
 - ⑱街コン

- ③外資系企業の県内誘致
- ④市町村の国際交流における県との連携
- ・日系人社会のブラジル経済交流
- 平成24年12月一般質問
 - ①福岡県・デリー州友好提携
 - ・格差問題について
 - ②情報格差（デジタルバイト）
 - ③雇用格差
 - ④学力格差
 - ⑤地域間格差（経済格差）
- 平成25年2月一般質問
 - ・本県の林業振興について
 - ①森林経営計画
 - ②九州北部豪雨災害の復旧
 - ③木材需要拡大と原木供給
 - ④伐採後の森林整備
 - ⑤荒廃森林から生じる間伐材
- 平成25年6月一般質問
 - ・ソーシャルメディアの活用と対策について
 - ①ネット選挙運動解禁
 - ②災害時の（県民への情報伝達を目的とした）ソーシャルメディアの活用
 - ③県民との双方向コミュニケーションによる広報・広聴活動の強化
 - ④パブリックコメントにおけるソーシャルメディア活用

- 平成25年9月一般質問
 - ・青少年の人材育成について
 - ①2020年東京オリンピック・パラリンピック開催
 - ②小中学生の体力向上
 - ③英彦山青年の家
 - ④県立高等学校同窓会

- 平成25年12月代表質問
 - ①知事の政治姿勢
 - ・県民幸福度日本一他
 - ②農政問題
 - ・農地中間管理機構、米政策の転換方針、ウンカ被害
 - ③防災・防火対策
 - ・自主防災組織のリーダー育成、防火対策
 - ④情報通信政策
 - ・本県のIT活用社会の実現
 - ⑤田川地域活性化
 - ・田川地域包括連携協定
 - ⑥教育問題
 - ・子ども・子育て支援新制度、筑豊地区の学力向上
 - ⑦警察問題
 - ・警察官の術科訓練

- 平成26年2月一般質問
 - ①循環型社会への取り組み
 - ②絶滅危惧種保護対策
 - ③学校給食・衛生管理と栄養教諭の役割

- 平成26年6月一般質問
 - ・圏域を越えた交流促進による田川地域の振興について
 - ①田川地域の企業誘致
 - ②住民交流の促進と新たな観光振興策
 - ③広域的地域水道ビジョン
- 平成26年9月代表質問
 - ・知事の政治姿勢について
 - ①地方創生
 - ②九州の観光戦略
 - ③田川・京築地区への航空機産業の誘致
 - ④オスプレイ問題
 - ・本県の観光戦略
 - ⑤軍師官兵衛・福岡プロモーション活動
 - ⑥添田町歴史的風致維持向上計画
 - ⑦福岡ソフトバンクホークス
 - ・農業問題
 - ⑧本県農業の振興と農業
 - ⑨農産物の輸出
 - ⑩ふくおかエコ農産物・GAP（ギャップ）
 - ⑪農外からの新規参入者拡大
 - ⑫キウイフルーツのかいよう病と今後の振興
 - ・公立学校教育の振興方針
 - ⑬県立専門高校の取り組み
 - ⑭小中一貫教育
 - ⑮中高一貫教育校による地元中学校教育への影響及び取り組み
 - ・暴力団対策について
 - ⑯暴力団壊滅に向けた取組み

- 平成26年12月一般質問
 - ①観光振興と地域活性化という観点からの「ふるさとウェディング」
 - ②婚姻数を増やすための取組み

- 平成23年決算特別委員会
 - ①グラフふくおか
 - ②県営住宅における浄化槽処理料の未払い問題
 - ③教員採用試験と業績評価
 - ④有害鳥獣被害について
- 平成25年予算特別委員会
 - ①国保連合会特別調整交付金
 - ②教職員の再任用
- 平成26年決算特別委員会
 - ①運転免許証を自主返納された高齢者の方の支援サービス
 - ②小中学校における女性管理職登用と若手教員の育成

3度の代表質問を含め、連続16回！
質問回数・時間、知事答弁とも
全県議で断トツのトップ！

- ・教育問題について
 - ⑩中・高一貫校の県内13学区への設置の可能性
 - ⑪学力低下と郷土愛希薄化
- 平成24年9月一般質問
 - ・本県の海外戦略について
 - ①本県海外事務所のあり方
 - ②地元企業からの要望案件

平成23年6月～田川地域の将来ビジョン＜知事答弁＞

①筑豊の烏尾トンネルなど基盤整備が進んでいるということやトルコキキョウの産地化、英彦山等の観光資源の整備など地域産業の育成が図られている。また、看護学部の開設をはじめとする福岡県立大学の機能強化、そういった教育環境も向上してきている。田川地域の自立的な発展に向けた潜在的な力というのは高まり、加えて、今回の山本作兵衛氏の炭坑記録画の世界記憶遺産登録の朗報。こうした潜在力とこれまでのこの地域にあります産業や技術の集積、人材の集積、これらを生かしながら、農業振興や観光振興、企業誘致、人材育成を進める。さらに観光、健康、環境3つの産業の観点を頭に置きながら、地元市町村と一体となり地域の総合力を高め取り組みを継続的に進めて行きたい。

＜田川地域の将来ビジョン～施策の方向性＞

県と田川市郡による広域連携プロジェクトが平成24年度に発足。魅力ある田川地域のイメージを構築し、福岡・北九州等の都市圏に向けて強く発信し、たくさんの人が訪れる地域を目指す。また、地域全体で地域の将来を担う人材を育み、地域住民が主体的に地域活性化に関わる地域を目指す。田川まるごと博物館プロジェクト、田川・人財育成プロジェクト（田川飛翔塾事業・田川いきいき学舎事業）の立ち上げ。

予算額～平成26年度 6, 740千円

平成23年12月～伊良原ダム＜知事答弁＞

②伊良原ダム建設事業は、総額約680億円を予定しており、現在設計業務付替道路等の工事を計画的に実施中。伊良原ダム建設に当たり、県は事業に伴う損失を補償するため、また、共同事業者であります田川地区及び京築地区の両水道企業団は水利権を取得するため、各々関係河川使用者との協議が必要。そのため県は、共同事業者と共に「伊良原ダム水利権調整会議」を設置し、協力して関係河川使用者との協議を行なっている。伊良原ダムでは今後、設計業務や付替道路工事などの進捗状況を踏まえながら、本体発注時期を検討していきたい。海面漁業者の対応については、「伊良原ダム水利権調整会議」の中で検討していく必要がある。内水面の漁業者と河川使用者との協議につきましては、現在はまだ協議中。一部団体とは調整が終わっており、また残る団体との協議を鋭意進めている状況。伊良原ダム完成に向けて私の決意ということでお尋ねがあり、伊良原ダムは、治水・利水の両面から非常に必要性が高く、京築、田川両地域の皆様の安全で安心な暮らしを確保するために重要なダムである。平成29年度の完成に向けまして議員の方からいろいろご指摘のあった関係者との協議あるいは諸手続き、それも念頭におきまして計画的な事業推進に努めて参る。

＜伊良原ダム～施策の方向性＞

治水・利水の両面から非常に必要性が高い伊良原ダムについて、平成29年度の完成に向け、様々な協議と諸手続きを経て、計画的な事業を推進する。

予算額～平成26年度 3, 537, 763千円

平成24年6月～香春岳周辺に生息するニホンザル＜知事答弁＞

⑩本県では、平成20年度に「福岡県ニホンザル対策基本方針」を策定し対策を講じている。サル群れが農産物や林産物に甚大な被害や人への威嚇が生じている場合には、市町村は基本方針に基づき群れの捕獲が可能となっている。具体的には、サルの生息数や被害の事前調査を行い、群れの捕獲が必要な場合、大規模捕獲網を設置、事後のモニタリングを行う。県としては国や県単独補助事業を活用して技術的・財政的支援を行うとともに、農林ごとに設置している協議会で指導・助言を行う。

＜香春岳周辺に生息するニホンザル～施策の方向性＞

香春岳の群れは大きく二つの群れで、二百五十頭以上が生息している。香春岳の猿は地元の歴史や信仰に関係があるが、近ごろではふえ過ぎて、本県が策定している人間とニホンザルの共存を目指した基本方針に適合しなくなっている。今後は、生態系保護の観点から猿の群れを可能な限り維持し、人間と猿の生活区域を分けた上での共存を目指す。

予算額～平成26年度 4, 193千円

平成25年2月～木材需要拡大と原木供給＜知事答弁＞

③持続可能な林業経営を確立するため、県産材の競争力の強化、需要の拡大が重要。このため、更なるコスト削減やニーズにあったものの供給が必要。県としては、森林作業の集約化や高性能林業機械の導入により、伐採作業の効率化を進め、ストックポイントを活用した製材工場への安定供給とコスト削減を促進。また、ニーズに応えるため、人工乾燥による品質向上が図られるよう、施設整備を引き続き支援。これまで県では、公共建築物等での利用を促進し、23年度の木材利用量は約6, 900㎥で、前年度比15%の増。市町村でも、県と同様な取組がされるよう働きかけを行っている。25年度から、園芸ハウスにおける重油と木質チップを併用した暖房システムの実証を行い、木質チップの利用を拡大していく。

＜木材需要拡大と原木供給～施策の報告性＞

今後、需要に対応した競争力のある県産材の供給体制の確立に向け、森林作業の集約化や林業事業体の育成を進め、木材の供給や未利用間伐材の有効利用、林業労働力の確保に取り組む。森林環境税（荒廃森林再生事業）の活用による森林整備の推進、林地の団地化と林業事業体への作業委託や経営委託の推進と路網整備や高性能林業機械の導入の推進。

予算額～平成26年度 29, 347千円

平成26年2月～絶滅危惧種保護対策＜知事答弁＞

②英彦山は県内でも特に絶滅危惧植物の種類が多いところであるが、近年、シカによる食害が著しく、オオヤマレンゲやミヤマカラマツなど17種への影響が深刻である。絶滅危惧植物の保護に取り組むことで、英彦山の豊かな自然環境を守り、筑豊地域の魅力向上につなげていく。英彦山の植生に詳しい専門家や保健環境研究所の職員が分布や被害状況を調査。その上で種子を採取し、保健環境研究所や英彦山青年の家、添田町の施設で栽培し、再び英彦山に移植する。移植後は、シカの食害から守るための防護柵を設置し、地元のボランティア団体と協働して維持管理を実施する。また、同時に、採取した種子は、種の保存のため、保健環境研究所で冷凍保存し、必要に応じて栽培や移植を行う。今回の対策は、多様な主体による保全活動を促進するため、県と地元のボランティア団体や添田町と協働して行うものである。また、保健環境研究所において、種子の採取の時期や方法、冷凍保存の技術などの研究を行っていくこととしている。まずは、今回初めて実施する英彦山での保全対策にしっかり取り組み、成果を検証の上、他の地域における絶滅危惧植物の保全対策にも活用してまいりたい。

＜絶滅危惧種保護対策～施策の方向性＞

シカの食害を受けている絶滅危惧植物保全のための種子の保存、移植及び防護柵の設置等。

予算額～平成26年度 6, 644千円

田川地域に関する実績の一例です。

知事答弁の結果、施策の方向性が示され、予算が計上されます。平成26年度当初予算で計上されました。

4年間の本会議質問に関する実績です。関連予算～平成26年度当初予算額（千円）

■平成23年6月一般質問		③県民との双方向コミュニケーションによる広報・広聴活動の強化	
①田川地域の将来ビジョン	6,740千円		366,934千円
②ICT戦略と自然エネルギー政策（電力政策）	3,526,334千円	■平成25年9月一般質問	
■平成23年9月一般質問		①2020年東京リビ`ッパ`リビ`ッパ`開催	136,811千円
①社会保障と税の一体改革	40,145千円	②小中学生の体力向上	14,206千円
②県税収入と滞納整理	171,841千円	③英彦山青年の家	47,338千円
■平成23年12月一般質問		④県立高等学校同窓会	16,877千円
①水道事業	675,002千円	■平成25年12月代表質問	
②伊良原ダム	3,537,763千円	①知事の政治（姿勢県民幸福度日本一）	16,922千円
③アジア環境ビジネスの展開	44,376千円	②農地中間管理機構、米政策の転換方針、ワカ被害等	2,531,897千円
■平成24年2月一般質問		③自主防災組織のリーダー育成、防火対策	29,608千円
①情報セキュリティ対策に対して現状と取り組み	350,759千円	④情報通信政策	759,202千円
④警察本部におけるサイバーテロ対策	31,960千円	⑤田川地域活性化（田川地域包括連携協定）	6,740千円
■平成24年6月代表質問		⑥教育問題（子ども・子育て支援新制度、筑豊地区の学力向上）	299,706千円
⑦県防災・ハイパーネット	9,207千円	⑦警察問題（警察官の術科訓練）	1,225千円
⑨新規就農者の取組み	961,179千円	■平成26年2月一般質問	
⑩香春岳周辺のニホンザル	4,193千円	①循環型社会への取り組み	254,516千円
⑩国際規格になったRuby	51,246千円	②絶滅危惧種保護対策	6,644千円
⑫田川地域の観光振興	82,727千円	■平成26年6月一般質問	
⑭SOHOサポートセンター	952千円	①田川地域の企業誘致	1,054,056千円
⑯新たな出会い応援事業	9,065千円	②住民交流の促進と新たな観光振興策	37,770千円
⑰中・高一貫教育校について	81,505千円	③広域的域地水道ビジョン（伊良原ダム）	3,537,763千円
■平成24年9月一般質問		■平成26年9月代表質問	
①本県海外事務所のある方	169,964千円	①地方創生	43,916千円
②地元企業からの要望案件	11,994千円	②九州の観光戦略	72,281千円
③外資系企業の県内誘致	6,111千円	③田川・京築地区への航空機産業の誘致	5,241千円
■平成24年12月一般質問		⑤軍師官兵衛・福岡プロモーション活動	15,000千円
①福岡県・デリー州友好提携	196,657千円	⑥添田町歴史的風致維持向上計画	112,836千円
③雇用格差	491,444千円	⑨農産物の輸出	40,935千円
④学力格差	289,928千円	⑩ふくおかエコ農産物・GAP（ギャップ）	15,031千円
⑤地域間格差（経済格差）	43,916千円	⑪農外からの新規参入者拡大	961,179千円
■平成25年2月一般質問		⑫暴力団壊滅に向けた取組み	401,225千円
①森林経営計画	33,907千円	■平成26年12月一般質問	
②九州北部豪雨災害の復旧	432,215千円	②婚姻数を増やすための取組み	9,065千円
③木材需要拡大と原木供給	29,347千円		
■平成25年6月一般質問			
②災害時の（県民への情報伝達を目的とした）ソーシャルメディアの活用	378,223千円		

地元からの様々な陳情や要望、請願を受けました。議会や執行部、田川県土整備事務所や飯塚農林事務所、また国への働きかけを行いました。これからも誠心誠意、地域の代弁者として頑張って参ります！

平成25年度から実施されている「鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業」において事業実施主体である市町村が捕獲個体を確認する際には、原則として尾、両耳及び牙とされ、確認については、確認した尾を市町村が回収・処理していることから、尾のみの確認で不正防止が図られるのではないかと要望がありました。そこで私は、他県の状況を調査し、各県の確認状況に差があり、混乱を生じている地域があることを把握し、麻生太郎副総理・財務大臣兼金融担当大臣の衆議院会館事務所を訪ね、「鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業の捕獲個体の確認部位として尾として統一すること」の要望書を手渡ししてきました。直ぐに対応して頂き、来年度から県の判断で対応できるよう検討するとの農林水産省鳥獣災害対策室からの回答です。

平成26年2月10日、福智町子どもの未来を守る会から、「中泉地区産業廃棄物管理型最終処分場計画に関する請願」が提出されました。請願とは、国民に認められた憲法上の権利の一つであり、国及び地方公共団体に対して要望や意見を述べることを言います。請願書は、要旨、理由などを記載し、県議会議員（1人以上）の紹介を経て、議長あて提出されます。私は、地元や議会棟で福智町子どもの未来を守る会の皆さんと意見交換を交わし、執行部とも協議し、会派の承諾を得て、請願の紹介議員になりました。平成26年12月16日小川洋福岡県知事は、平成24年2月29日付けの申請により求められた産業廃棄物処理施設の設置について、不許可とする処分を下しました。

県道猪国豊前柵田停車場線（川崎町下真崎公民館横交差点）が平成27年1月28日に開通しました。行き詰っていた道路整備の陳情を受けたのが、この県道猪国豊前柵田停車場線でした。最初に添田町在住の元川崎町役場課長から話があり、地元の皆さんからの強い要望をお伺いしました。その後、田川県土整備事務所長に連絡し、区長さんをはじめ地域の皆さん、川崎町役場にも同行して頂き、田川県土整備事務所に陳情したのが、平成24年6月でありました。その後、何度も県土整備事務所足を運び、関係者のご尽力により予算が確保でき、開通の運びとなりました。地域の方々の生活の安全や小学校通学路としての児童の安全を確保する機能も果たすことができました。関係者の皆さんに感謝を申し上げます。総事業費5億7千万円

副総理 財務大臣・金融担当大臣

麻生太郎

先生をお迎えして

“ 県 政 報 告 会 ”
多くの皆様のご参加、本当に
ありがとうございました！



こうざき 聡

“ こうざき 聡 ” を 全 面 的 に バ ッ ク ア ッ プ ！
県政の発展と、筑豊そして田川の未来に欠かせない存在！！



略歴

昭和63年 添田町立添田中学校卒業
昭和66年 福岡県立田川高等学校卒業
昭和69年 日本大学商学部会計学科卒業
昭和69年 麻生セメント株式会社入社
平成2年 株式会社麻生情報システム転籍(分社化)
平成12年 株式会社麻生情報システム 取締役
平成13年 株式会社麻生情報システム 代表取締役
平成19年 福岡県議会(田川郡区) 13, 508次席
平成23年 福岡県議会(田川郡区) 13, 519初当選

福岡県議会での主な所属

親友会福岡県議団 副会長
農林水産常任委員会 副委員長

平成26年度決算特別委員会 委員兼理事

福岡県農政道 全委委員
福岡県農政調査委員会 委員
少子高齢化対策推進特別委員会 委員
九州・沖縄未来創造会議 委員
福岡県文化議員連盟 副会長
産地地域活性化対策福岡県議員連盟 幹事
オイスカ国際活動促進福岡県議員連盟 理事
福岡県樹林振興議員連盟 事務局長
田川直方バイパス延伸推進期成会 顧問

福岡県日韓友好議員連盟 副会長
福岡県日米友好議員連盟
福岡県日中友好議員連盟
福岡県国際交流推進議員連盟
福岡県タイ友好議員連盟
福岡県ベトナム友好議員連盟
福岡県日台友好議員連盟
福岡県森林・林業・林産業活性化促進議員連盟
福岡県防衛議員連盟
過疎地域活性化対策福岡県議員連盟
福岡県観光産業振興議員連盟
福岡県スポーツ議員連盟
九州の自立を考える会 政策提言委員

こうざき聡事務所

〒824-0602 田川郡添田町大字添田1417
TEL: 0947-41-3880 FAX: 0947-41-3881

こうざき聡 ホームページ

こうざきとし

検索

着眼大局 着手小局

郷土の価値を高めます！

県政(執行部・議会)一丸となって、田川の振興に努めます！

県政の課題に！

- 防災対策(災害時における情報伝達体制の充実)
 - 災害情報通信基盤の整備、防災メールまもるくん充実強化、ツイッター活用
 - かけ置、地すべり等の治山対策
- 防犯・事故対策(子どもや女性に対する犯罪の防止)
 - 大学生等に対する性犯罪被害防止の啓発
 - 「女性と子どもの安全あまもり」の啓発促進と活動支援、青少年非行防止と健全育成

地元の要望に！

広域的交流・物流を担う幹線道路の整備

- 主要地方道田川直方線延伸整備(国道201号と国道322号連絡) ~平成28年度着手
- 一般国道322号バイパス全線早期完成(香春町大任町間の早期完成) ~平成31年度完成

観光拠点等へのアクセスを強化し交流を促進する道路整備

- 一般国道500号の改良促進(鍋島屋-別所駐車場間改良の促進)
- 主要地方道添田赤池線の整備促進(大和工務-関の山交差点、川崎町役場前-三ツ木交差点道路改良(バスカット・右折レーンの設置)、赤池1地区(2区画))
- 一般県道佐田線の道路改良早期完成(安永交差点)

災害の防止、安全安心は河川・道路空間の整備

- 2級河川今川(赤村特産物センター周辺の河川整備早期完成)
- 伊良原ダム完成(平成29年度)

地域振興と地場産業の育成

- 田川広域連携プロジェクト「まるごと博物館プロジェクト」「田川・人材育成プロジェクト」「通覧川・彦山川プロジェクト」をさらにパワーアップ
- ブランド化を通じた地場産物の競争力を強化
- 若者(新規就農者育成)や女性(新商品開発支援(6次産業化))活躍推進
- 有害鳥獣被害防止対策
- 農村環境整備事業(庭園整備・農地事業)の予算額の拡大及び補助率見直し
- 県営ため池等整備事業：農業用水利施設の経年劣化に伴う予算確保
- 県立高校の改修と県立中高一貫教育校の設置推進

九州の成長戦略に！

観光振興

- 企画、農林水産、商工、建設土木等、自治体の各行政部門が一体となった総合的観光行政の推進(観光振興、新たな観光振興の創設、W1・F1環境の充実、水素自動車リチャージシステムの導入等)

農林水産業の経営力の強化

- 九州の農林水産物及び加工品の輸出戦略の司令塔となり、マーケットインクから販路まで一貫して扱う専任機能を有する組織を設立

先端中小企業の育成と九州経済を変える多様なエネルギー供給戦略等

- 起業意欲が高い海外の若者とわが国の若者を積極的に交流させ、起業意欲を喚起する取組への助成、起業する若者に対する事業資金の支援
- 県営公共施設の活用による中小企業家同士の合同研修・交流の機会を各県が無償提供

空港、港湾等の機能強化その他インフラの整備

- 北九州空港と福岡空港を高速道路で直結し、北九州空港の滑走路を延伸する等による両空港及び近接する佐賀空港の一体的な運用、中山間地域のクリーンエネルギー促進、高い安全性と利便性の基礎を備えた公共交通機関オードキャストの整備等

スポーツ振興、スポーツ関連産業の育成等

- トップアスリート育成に向けたスポーツアカデミー設置やスポーツ少年団へのプロコーチ派遣等の活動支援、司令塔となる「九州スポーツ振興財団」を設立

雇用対策(若者就職支援、女性が働き続ける職場づくり、中高年の就職支援)

- 30代チャレンジ応援センター等とハローワークとの連携強化
- 指導的地位への女性進出促進、NPOやボランティア活動による高齢者活躍の拡大

高齢者・障害者対策(介護する家族への支援、地域で暮らし続けるための支援)

- 在宅高齢者身障者等のための医療型短期入所事業所の設置支援等
- 定額返還・無料相談サービスの普及促進、市町村「介護施設予約システム」導入支援

教育問題(確かな学力、信頼される教職員の育成)

- 学力向上支援チームの重点的派遣、教員研修や教材・教員の開発などの支援
- 採用試験の工夫改善、大学等と連携した教員養成の充実、ベテラン教員指導力継承

観光振興・地域振興・農林振興・商工業振興

- 良好な景観づくりなどの取り組みの整備、九州一体となった観光振興の取組
- 食文化や自然、歴史文化など、地域の資源を活かした観光地づくり
- 安全で安心な高品質な農産物の供給、商店街の活性化